

前回の講義内容の復習

- 1 咽頭の位置、構造と機能
- 2 嚥下と誤嚥
- 3 喉頭の位置、構造と機能
- 4 喉頭軟骨の種類と構造特徴
- 5 喉頭前庭、喉頭室、声門下腔
- 6 声帯・声門・声門裂と発声

下気道は _____ と _____ からなる。

気管 trachea は喉頭に続く径 2.0～2.5 cm、
長さ約 _____ cmの管である。

気管は**第6頸椎**、または**輪状軟骨の下縁**から
始まり _____ の高さの高さで左右の
気管支に分かれる。気管の上半分が頸部に
位置し、下半分は胸部にある。

気管頸部の前に**甲状腺**があり、
気管の後方に _____ がある。

気管の構造

気管の壁は16～20個のU字形の**気管軟骨**があり、気管の前方と側方を囲む。

気管軟骨は呼吸時に気管がつぶれないように働く。

気管の**後壁**には**気管軟骨**はない。

食道が食物通過で拡張しても気管を圧迫しない。

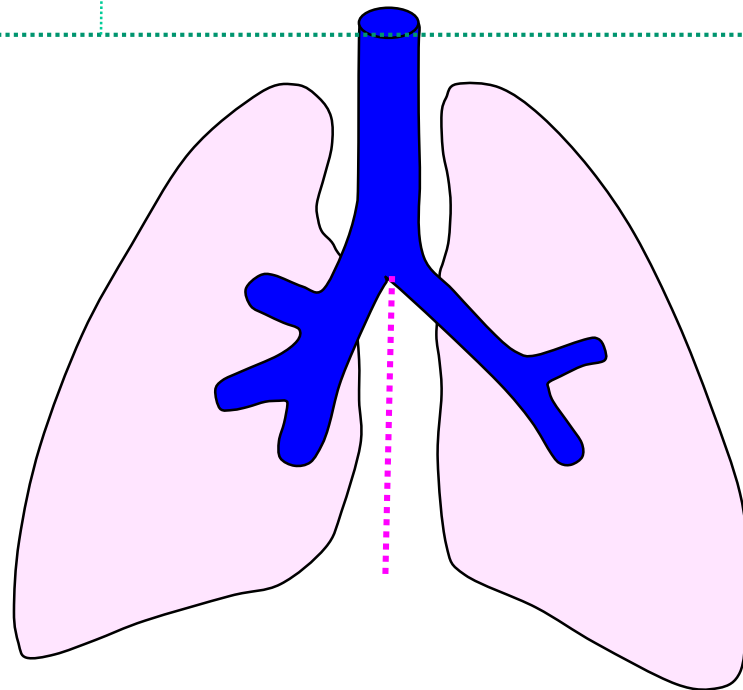
気管分岐部と気管支

気管は**前頸部正中**の皮下を下行し胸腔に入り、
心臓の後方、**胸骨角**の高さで左右の**主気管支**に
分かれる。**右主気管支**は左より_____。
また気管の正中軸からの分岐角度が_____（
右25度、左45度）。肺に入った気管支は肺葉に
対応し左に2つ、右に3つの**葉気管支**に分かれる。
肺葉の中に形成された肺区域に対応した
区域気管支が樹枝状に分岐する。

気管支の左右差

右気管支	左気管支
長さ：短い 3 cm	長い 4.5 cm
太さ：太い 15 mm	細い 12 mm
傾斜：垂直に近い 25°	水平に近い 40°

異物を誤嚥すると、
右気管支に
入りやすい。



気管竜骨/気管カリーナ

気管分岐部の内面で左右の

主気管支を隔てる稜状の高まり

がある。この高まりを気管

竜骨という。気管竜骨の粘膜

感覚はとても敏感である。

刺激されると激しい咳を起こす。

気管支の分岐

気管支は2分岐を繰り返しつつ次第に細くなり、肺胞に至る。左右1本ずつの**主気管支**は肺葉に対応し右3本、左2本の**葉気管支**に分かれる。肺葉の中に形成された肺区域に対応し、右10本、左8本の**区域気管支**に分かれる。さらに分岐を繰り返し細くなる。径2 mm以下、壁に軟骨がなくなると**細気管支**となる。壁に**軟骨**と**平滑筋**がなくなると肺胞管、肺胞囊となる。